

ロボットエンジニアの夢へ

今年度もたくさんの若者が実践技術者の門を開いた。当科の職員室は本館3階の端にあるのだが、4月頃の1年生は職員室に入室する際の挨拶（名前と相手の先生の名前と用件を言う）が初々しい。一方、電気電子工学実験という

実験レポートの作成や受理にコツがあると先輩達が口を揃えてアドバイスをくれる科目もスタートしていた。授業で習った理論をすぐに実験で試せる当短大のカリキュラム構成上、授業で習った理論を確実に理解しておかないと実験レポートを受理してもらえない。

伊藤君が当短大の門を初めて通ったのは小学校5年生の頃である。目的は、おおよそロボット人財育成コンソーシアム主催のロボット教室に参加するためにある。この教室は現在も続いているが、伊藤君は当時の思い出を「生まれて初めてプログラムしたロボットが思い通りに動いたこと

に友人を誘って参加し、2人でロボットの性能を競い合う楽しい思い出ができたそうである。ロボット教室でいただいた賞状の他に伊藤君は今も持ち続けているものがあ

る。それは「ロボットエンジニアになる」という夢である。高校生になってからもその夢を持ち続けていたが、よ

モチベーションを保つための具体的な「組込みシステムエンジニア」を目指したいと考えるようになり当短大のオープンキャンパスに毎年参加していた。

までは伊藤君が小学生の頃に参加したロボット教室でも使われているレゴ社の製品を使用していたが、保守部品の生産中止等の理由により、当短大の実習設備である基板加工機という実務でも使用されている装置で作成した自作プリント基板に電子部品を自分の手ではんだ付けを行い、2つのタイヤと2つの光センサー

の間にセンサーを固定し、最終課題の巨大なコース（写真2）をクラスの仲間と共に目にして伊藤君は次のように語った。「卒業する頃には、このコースを自由に走れるプログラムを書けるようになりたい」と。

こうして今年度の新入生も夢に向かって第1歩を踏み出した。1人でも多くの学生が夢をかなえられるよう、我々は応援し続ける次第である。

秋田職業能力開発短期大学校 電子情報技術科 講師 松田 晃太郎

秋田職業能力開発短期大学校 電子情報技術科 講師 松田 晃太郎

秋田職業能力開発短期大学校 電子情報技術科 講師 松田 晃太郎

伊藤 翔さん（1年）

秋田職能短大 電子情報技術科

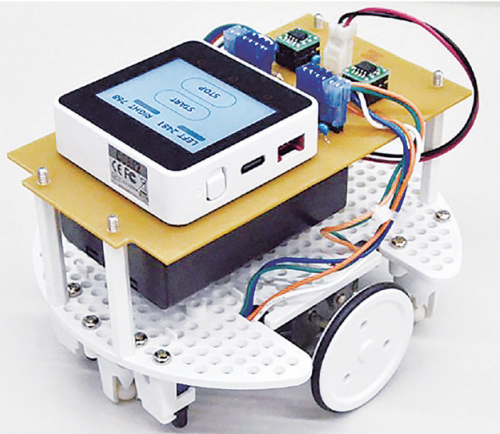


写真1 ものづくり基礎実習で製作するライントレースロボット



写真2 クラスの仲間と最終課題のコースを研究する伊藤君（右端）

秋田職業能力開発短期大学校 電子情報技術科 講師 松田 晃太郎